



**栃木トヨペット株式会社様より  
車椅子15台が寄贈されました**

栃木トヨペット株式会社様より、当院へ車椅子15台が寄贈されることとなり、10月10日、当院のグリーンホールにおいて贈呈式が執り行われました。今回の寄贈は、同社が昭和31年創業以来の経営理念とCSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）に基づき、「社会公共福祉への貢献」を目的とし、実現しました。贈呈式では、新井祥司代表取締役社長から吉田良二院長に目録が手渡され、受け取った吉田院長からは謝辞とともに、感謝状と記念品が贈られました。今回寄贈していただいた車椅子は、入院患者様・外来患者様のために有効活用させていただきます。



**～カラダをいたわる食事の選び方を分かりやすく講演～  
市民公開講座「知っていますか？  
自分のカラダに合った食事の選び方」を開催**



11月8日、糖尿病・内分泌内科所属でNST委員会委員長の清水健一郎医師による、市民公開講座を開催しました。講演テーマが身近な話題とあって、100名以上の多くの方々に参加されました。講演の中では、良い食事をするために毎日体重計にのって自身の体重を管理することが重要だと説明されました。その他、定期的に血圧計測や血液検査をすること、健康診断を受けることが重要で、諺の「彼を知り、己を知れば、百戦殆うからず」の通り、病気という敵に打ち勝つには、病気のことを知ると同じくらい、自分自身のことを知らなければいけないということをお話され、会場のみなさんは感心したようにうなずきながら聞き入っていました。



**スペシャルゲストをお招きし  
糖尿病に関する市民公開講座を開催**

11月15日、「とちぎにおける糖尿病の現状、そして未来への展望～糖尿病と言われても、前向きな生活を～」というテーマで市民公開講座を開催しました。まず第1部では、糖尿病・内分泌内科の診療科長の藤田延也医師が、栃木県における糖尿病の現状等をわかりやすく講演しました。第2部では、宇都宮BLITZEN運営会社サイクルスポーツマネージメント社長の柿沼章氏をゲストに迎え、「糖尿病運動療法とジテンジャ」と題して糖尿病・内分泌内科の友常健医師と神山大地理学療法士によるトークショーを行いました。その他「糖尿病食事療法と宇都宮餃子」と題して、宇都宮餃子会事務局長の鈴木章弘氏と岡本憲一管理栄養士によるトークショーも行い、90名以上の方々を集め大盛況のうちに幕を閉じました。



**がん患者支援チャリティーイベント  
リレー・フォー・ライフジャパン2014とちぎin宇都宮に参加**



9月13日～14日に宇都宮城址公園で開催された「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014とちぎin宇都宮」に参加しました。リレー・フォー・ライフ（命のリレー）は、がん征圧を目指し、がん患者や家族、支援者らが夜通し交代で歩き、勇気と希望を分かち合うチャリティーイベントです。1985年にアメリカ人外科医が、がん患者を励まし対がん運動組織に寄付する目的で、「がんは24時間眠らない」「がん患者は24時間、がんと闘っている」をメッセージとしてフィールドを走ったことから始まりました。

日本国内では2006年9月、つくば市で第一歩を踏み出しました。栃木県では2012年に初めて開催され、今年で3年目を迎えました。当院も「チームなでしこ」として毎年参加しており、今年も職員と看護学生等の有志約80名がリレーウォークやボランティアで参加しました。当日は特設ステージでバンド演奏やダンス、がんまつわる講演やトークイベント等が行われており、夜にはメッセージが添えられた2187個のルミナリエの幻想的な光が会場中に灯されました。途中雨が降る中、参加した41チームが協力し合い24時間たすきを繋ぐことができました。毎年多くの仲間と参加することでがん征圧に向けた熱い思いを高め、「がんと向き合える社会づくり」の一役が担えればと思います。



**初の試み  
新型インフルエンザ対策訓練を実施**



9月13日、当院では初の試みとなる「新型インフルエンザ対策訓練」を行いました。職員と看護学生合わせて127名が参加し、看護学生30名が模擬患者役となりました。模擬患者には年齢・性別をはじめ、症状、体温、脈拍、血圧等の身体所見の他、渡航歴、移動手段、付き添い人の有無まで詳細な設定をしました。中には、高齢化を想定し、高齢者体験キットを装着して歩いてもらう設定もありました。

今回は、新型インフルエンザの国内発生に伴い、県からの要請があったという想定で、対策本部が立ち上げられ、トリアージブース・臨時特殊外来・臨時処置室の設置、臨時感染症病棟の開設を行う訓練となりました。約2時間半で全模擬患者の訓練が終了し、最後に吉田良二院長と感染対策チーム（ICT）の責任者で総合内科の小村賢祥医師による総評が行われ、第1回目の訓練は幕を閉じました。

